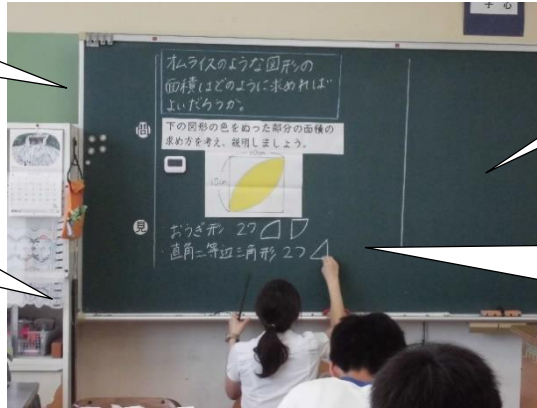


仮説① 他者の思考過程を理解しようとする話し合いの場を工夫すれば、思考・表現する意欲が高まるだろう。

○学習課題の形にどのような図形が含まれているか全体で確認し、見通しをもたせた後、自力解決に取り組み始める。正方形やおうぎ形、補助線を引けば直角二等辺三角形が見えるなど、最低限必要な情報を確認することで、全員が少しでも自分の力で取り組めるようにする。

T:どんな図形が見えますか。

正方形は見つけやすいね。



おうぎ形が2つ見えた。

対角線をひくと、直角二等辺三角形も見える。

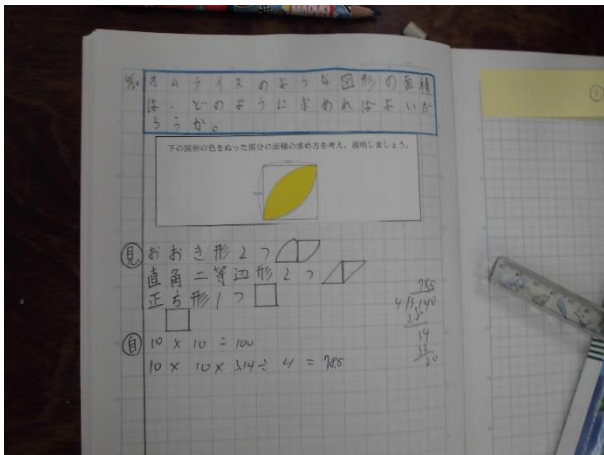
○自力解決の途中に、同じ解法ごとに小グループをつくり、話し合いを行う。なお、効率よくグルーピングができるように、自力解決のはじめの時間に、教師が解法ごとに番号を書いた付箋を児童のノートに貼る。

ここまではできたんだけど…



どこまでできたの？

おうぎ形は÷4すればいいの？



解法ごとに付箋で色分けし、グルーピングを行った。



見通しがもてたね！

仮説② 児童の実態に応じて、つまずきや誤答を生かした授業展開を工夫すれば、考察・表現する必要感が生まれ、学習内容の理解が深まるだろう。

○多くの児童が正確に問題を解くことができるように、つまずいて途中までしか求めることのできなかった児童や、誤った答えになってしまった児童の考えをまず取り上げ、どこでつまずいてしまい、どこを間違えたのかを少人数のグループや全員で考えさせる。

おうぎ形から三角形をひいてみれば。



このあとどうすればいいだろう。

○話し合いは、つまずいている児童から発言させるように促す。ホワイトボードに書き込みながら自分の考えを表現する。周囲の児童は、その説明を聞いて答えを直接教えるのではなく、つまずいている児童に既習事項の公式を思い出させたり、どんな図形が見えるかを聞いたりしながら、一緒に立式し計算して答えに導く。



ここまでではできたんだ！

成果 (○) と課題 (●)

○同じ解き方の児童をグルーピングすることで、共通のつまずきについて話合ったり、積極的に教えたりすることができた。

○ホワイトボードを活用し、グループの考えを整理しまとめることができた。

○最初に丁寧に見通しを立てたため、下位児童も複雑な図形から既習の図形を見つけることができた。

●見ただけではヒントカードの難易度がわかりにくかったため、下位の児童が難易度の高いカードを選んでしまった。難易度がわかるような印をつければよかった。

●公式に戻ってまとめにつなげれば、理解が深まった。